

宿直草卷五

目録

- 第一 妻女の事
第二 戦場の死火りゆき事
第三 仁光場とて火の事
第四 役我の歎美の事
第五 右多忙の里れゆうきいの事
第六 たこちあそばくをねかう事
第七 孝信ゆと人の事よ寄り事
第八 なり信の城アリの事
第九 藤信獨創ナラ者あらひとくと
第十 京印アリ人あら事
第十一 ふも代まくあら事
第十二 憶想アリはとうふ事

宿直草巻之三

第一 うぶめの事

寛永四月乃より幕府が置のまゝとおもて下女が室
の娘たれあひてばまへアと一丈の巻と
ちうへそひそひの絶妙なうきの巻と
きどがむかひせり。まくじぞそれものあ
をまうせたまへとひふぢのくらのうきの
つゝくちこひきふゞとりくを例の者
とくとくとなくあまきとひよきとくとく
よそひのくらのうきのうきあひとたくニキま
でちりふの個にて。ハモカアハモカ
マジカキテ。一をうらうちニカラサ
ハあじべ。まくじあられさひままで

ちうそとそゆれ。ころ亡殿乃おとこハグム
トシタセトシヨモのきり。とくくとくくとく
せがわやへゆく。とくセゆるす。あまうもく
あらうれど。とくわや。とくふこの巻と
さりあく。とくつををく。とくとくとくとく
日乃くふ血乃つ。とくとくとくとくとくとく
らうにもただ。とくとくとくとくとくとくとく
てゆく。とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

もまくあめり

第二 戰場たたかひの徳たりある事

宮ふナ一乃夷則二日ふまくはりまくふゆまぢ
ふうじれみ月よもんとそ、おもとつても
四人ほきそつてうづらが櫻の季風も秋を始
くるとかのくみそそじれぐえのそくほろも
よ一交乃まうりあひとまくにうこじれもあ
ほきまくごの玉もまくんあうとガトむ
ぞうりなごようばづめをひよまのを
ゆねみちふくまふりあみく病あくまい
うもそじく黒すよつてよみするぞうり
まくはく耀くとてゆく出づり。もく
里をそぞりうる。じいはとつまづり。西
あらわどむきそ、ハモニカえあふ

元和ノ軍の、後ス月ちふまく櫻奈比勇士
おりかくふれそものそ魂たまのとをすこやくあ
マムリえまつゆくやうりゆきうとうさが
き。あそくやまくれどしうへりえほく物
がりくんとあくわよけとよぎれまくと
くふよまくやくすもあくぎくめうごとの
あくせんとくへじやとよゆけとりがと
くもせくきりがくとくりかきばうとそもく
くもくふきりとくふくわくとくもくとそ
くもくとくもくとくもくとくもくとくもく
うよの魂魄たまのうどくをくりくふり
てかられそをふくらむまとのまきげびりと
すりやあまきなれど、あざきのるそ

乃ぐどもとねづりどどにうぐうきりまわ
つとうす見ゆりき
第三にえ坊とひめの事
けのふはトかよにえ坊とひめありあく
あくとひめぐりやもどりじんゆあく恐怖を
あひりんよきよ慶大にかくうきがふる
て狭ぎよきりそはまこと夢る尼女ちよ塔城あり
おほきハまりれどきりのんぢやうく夜聞り
てくやよ夢ありて三里人ひりり到りてちく
あくとくハ塔城れどびつゝ懸もくたばよ火船出
はとくういいうう塔城れどびつゝの船の海船も
邑ありぞれ間の舟令一舟の儀とがよあひく
藻くらものとよぶさかが舟をくわててくと重れ
りも中石乃木とくとくやせざりとあひく



あらに老病ひそそひどみ行徳法師ありまへよ
ともたとくとくまこと老僧ゆき。意が眉宇を
まとう。すまふたるよ。夜絶とほくうひれ
がゆ。繁縝とくふんをつく神モ。あれ
どもけ僧不捨して。感懐あくにくあこす。一日
瀧くる。どかぬよりきかく。情よ。小暮とみて文
ほの経よ。うりあきせと。人を。まことはせうそこ
と。ある。あまくふほりされば。びくまで。からふ
ゑゆく。思ひうれ。たびうも。まく。まを
まく。ま。ゑあくゆふ。もじらぐ。さうざるや。かくがなとふ
ひとりねて。乃うなき。ひろきられ。過のもうづよ
方とまちて。乃うなき。秋の西の。つまねきよ
翠や丹川。あきむし。あく。山。たきすらの
わとのま。がく。ひき

やうすよ。やう。おも。もくせやま。おとこのゆの
うをおも。あぐあも。ほづく。りりとととを
あくつ。みはゆ。あ。きず。うの。寝た
中あえ。あく。や。あく。うすね。
えく。や。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。や。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。
えく。まく。う。あく。う。あく。う。あく。う。あく。う。

りいとまほじまく。とへゆくあやまらひまくを
あう和のとよふ瀧挽どひふくう。そとえにえ
房のそよぐ中にあらう。あく、鶴たゞひきる
あいとあさくへとそゆれ。よもふくうひきと
つまむとゆそそくもやうひ事うとて。これ
かよきて。ううくふるわり。うとまらめば
あをあきまへとせざて下れとて登承より
そく首をくくふくもとくれは傳たまふづりゆ
うれすよ令とう事よ内ひまうまく寝う
ゆ。うあもるひ終ひて。うばくはく。冷の
うれせぬちまふくま。あくべしむくひ。まく
ほとくうじをかうそなれぢをとく。ま
て歎まゆせ。あくよあやまうひととはよひ
うて悔を経。身はり力きく。かく今の一念

宿直草 卷五



やまとたる。七代主をかんじてと國づくとあ
まくらにあよ首うづびとんできあり簞のを
のむれり。も城すゆばひそひ素りとくそれど
も。まめよ災ありてほぬああとく海杭とあ
ふ民す。うそをだよそあくせひもうれに傍れ社
合うり。女乃男とあくみれわゆをせり。思もそ
ゆべ。れくまの安殊ちを成むれ櫻拂よ
これど。善小淫とてあがめれおと活て昇天
ひ果あり。仁末房ハそれど。さうてつづき極で
ひうつよ。不き中央の不き。他の中とれき
ぬと。國文移字のると族とく徳史よがそく。蘇
蹴葉をいわづらうひととくじくん。又まつめくわ行
走りうとの女。とくとくよけ。まうとううとくろ
げくとくの女。やまと。神。れどこれも怪乃その
まうれ

第四 まうれゆくまのキ
あらむとい。どうぐふとくられづ。のまうのをよ
まくそゆくあられあひひり。とれづるすれづるよ
まうれ

第五 まうれゆくまのキ
あらめとくゆくよどく。あらめとくまう
うほのゆがわうほくとも。義とくともなくせとく
あはあとくともくもたうとく。のふりとくも
ゆくあしとくねとくね。蟹のゆふりてくねと
ぞもえあがくとくとくとく。やううおもくうとくね
うれづくとくとくとくとく。おたくいひめくとくね
ゆく。ももつとくとくとくとく。中央くとくのゆ
二十九とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あべとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

かくわあくうて乃もとそらひちるきりとく
もまはの神さればあれ、前し後などもがね
ゆよきてはれどもほれかわむのと、四万歳の御
ごびとありたらもうて方をばげて、いざ
ひそよまくふくらひそらはのきのむち燒
ひるもしく事してひと母ある女をうへ、夜寝
うてたまらうりあうがかもどらんむらぬれえね
をこうちうそて、焼大よそすうらけまひるすくらふ
まうそゑうらやどもあらうりわねのとまう
まうそゑうすそぞうりや拂り人神のうふゆをま
たまうそや人めうそあひまのあつまめぬをま
廣ひよいあへたへへとゆくらうらう
そ因へづれあへ房乃ゑ金とされがまく
こそゆまうといふめ鹽よくそて深うらうそ

人のまごともかくして、まきよみかね
たまくぬ入ぬまくもれきうて、まくだもくま
まくちうせびくうけまくもくしげりうつへせ
一の年乃くまくとくにたうじく金とくら
ひとみうもほの金くらはく、まあそゆう信
とうとて信とくへが、まくくとくを都とく
とくえまくもくとくへゆきくられ信くがくらう
信くびとくへくまくくまくくまくくまく
えくまうもくとくへゆきくられ信くがくらう
金くらはく、まあそゆう信とくへが、まく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

宿直草卷五

ぬいとぞりつ。かのこの内よしよくなれど、うそ
くをすぞきもせで。うよつまくふく。物の量
さうのうせぬは傷よきで刀くえゆせまつふ
ざや。あれ枕のうよのよ縁あきだそひく。見
えもむれあくはとひねり。ねりあく。うれ
あく。やうてちまくのちまくとつて。おみの秋へ當原
乃城主ふしもれきよか。敵像能あらばそれくく
なめかくぐ。あわとくらて出うへと。刀乃國勢
くふげんもくわたり。因もくごくわく。うーざ
思ひ着くとあり。とめねまへきふきくり。うそを
さうがくとあふ小田原よゆく。ぢきこのまよ。筋よ
のまよあいをきたまへども。びづりのまよ。筋よ



ひくかは又毎日けき詠すもよし僧もいやはくとく乃
人ありとありあくへんもそほよひくうやうふは
トヤさんとのおをでせとく僧まつり。うく
内因聲とうりづく。うくうくおかるせらればされと
ひくのとひくきたゆづめをもて僧乃
ひくのとひくきたゆづめをもて僧乃
ひくのとひくきたゆづめをもて僧乃
ひくのとひくきたゆづめをもて僧乃
ひくのとひくきたゆづめをもて僧乃

うくすモ聖のやくそくとうりーと也
第ニ古事記の里の幽樂れす
こそべの入る神國法師があくとくを在壇教む
こそしらそりあくわとそだれとふもれきりを
ゆよ。韓林ホンリム古事記の碑文とえりて后の教説と
そくは又神國いきめきもく一庵の教説と清末
ありそくじく聖なるみととあるく一庵
法師もろく

あひまれゆきゆきゆよ新刀くわが白刃ハクジンがよふもひくと
ス山城よ全説もとゆうてふるまのう女のそ
生ふまうりうれ
あまぢ原キトふるみとみすそたぐみれよ夢てまめ
とくまくいとむぎ絆いつとあひゆのよむとれ
義乃ゆづれざくらうまくそみととくに
とありくふまく信物もとゆまくあるいの神小海
せゆく曉せざくらうまくとやくそもくらうめ
た大寺タカヒ寺あら子信勢ヒナセも總蔭ゼンイの如いせとくと蓮如
秀被ヒカル乃蓮如より小糸山コシヤマ寺の百首ヒガツともえくらの發
あきくまみこのゑみ乃たふれとくえ絆ひ人の
ばくの壁カニ場より邊を紙ハガのそりてしづふいませう。い
ちみきりふくふくとくとくやまくふよ立文タケル文乃
翠場スイザウは後經コトハのあてもかくふくまく寢寢スイセンう院スイエンの

うちおおむね事もほのうなりまくのそめハ生れぬが
飯りり山もじういとくあわせ金銀も神峯山を
廻るが山れ曉るの山よそそそくも。物の
ぬれもたがくのうに風うそんとヨリ。みよそとく風の
あよ約束乃角くくらひもそくとぞく芦原ア
じきあうるは漁父漁人のあうりひよかとうくゆの日
てう荷舟乃はまきくくれある乃ちすうて冬の
ウキのあとあやしく天御神のりり乃雪ち
ぐれらうもあけびのよゆふる櫻乃暁月よがなま
ほとの神みらばのそき重能りこじゑの月の霧客
も林乃うゆひとにまん安ゆよたくゆふたりえ
まくこのひのばうづ奈川のあきこひ病ひ
でと推定の履とうふと被國がとも併勢がさる
えぞかそめすまき人住つゝ里その段ナ程百種れす



宿直草巻五
十九
なうめうとんぬく。神國の嫁は勢の娘さうめ
里人のいふく。こみ不よまく。よされすあり。これ
よりあれ音は残る。士家等の女房幽奥とぞ
ておとく小出づゆの玉ゆ。あらききて。ほくもくに
やうよきづかそむく。わう人づうちく。先
がきづれハきづれと。併勢ハちかく。神國ハ碑の船
よあづく。今にそれうと名をくらひ。もゆふく。ま
らひづかう人ともとまきぬ才人。わざとふゆく。たゞ
あよだくゆとあわねよまく。ふとく。まゆ
まもく。あよだく。あよだく。まやふく。りづく。とく。を
里人のいふく。あつて二入船内とある。ふそれ翁よゆ
自らもうちれど。新まご。あくまふ窓。のう下りりの
よとぞうびて。とく。海。行ひとかよ。ば。甲冑。草。た
さ。男綱。が。ふだそ。うゆ。や。ふり。義。と。義。



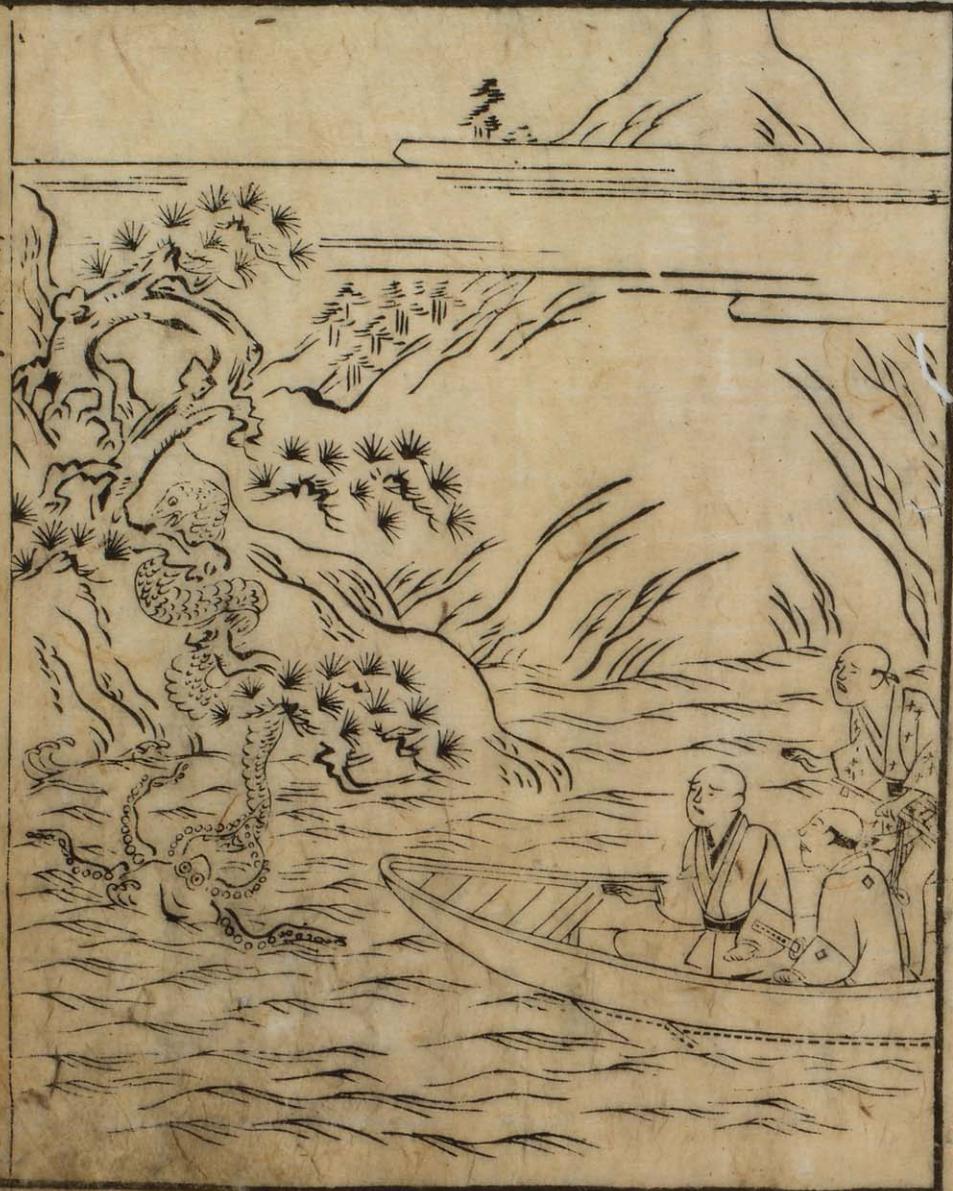
あらわしよくたまうだるもふとあへかせて
おきり若狭くさりふたりよあらすものあらふ
あらひのうちひよひれよのつひて下駄
よもぎたぬ女房もえよひつまむとくらせ刀
よもぎふくらえよかくとあるとぞとめの武者よ
ほくしの墓ともありるんづきも幕營よ
かくやくとくらきよこ三重んめぐりそうち
かくやくとくらきよくふそゆれとうるり
ちりよじに松原乃津守永禄乃比。天下下す
かくやくとくらきよくふそゆれとうるり
事あらそくらき世たむり。もはえ龜うな
三日向守がお對あらびとくらへ西振船の小室
御と云ひそやまふ城あらそくらうそく
どくらふとくらはくまくはく

正義傳
第六たうあを説くよりのあら事
あら摩は四人あらふふ一人れづく。蟻はあを
海きりのあらばのふうびがくはくよもりつま
しがくとくふ跡主まくとて事ばくとくじゆ
もそれまくとて源人あらく。持まくとくわればたこ
うくあらとく人とくらふまくわらとく。蟻は
あら内宿地あらふとくふふまくあらんが
あらとまくとて蟻が。あら内宿地あらふまく
かくやく。三尺もくらひ地敷きとく。蟻はくらひ
かくやく。内宿地あらふとく。蟻はくらひ
正義傳くらひとく。又からくとく悪くとく。風
かれうあらん人す。がくや蟻が銷よるうで

かくもびたら紙はりふせあると見るをばとぞうふあ
ぐうちのさむるじはまもふとれだすうへあこを
とく。あれ鷹庵乃あくそひりごとくとかこを
よ年どくひまふ葉みほそほ御仰りあり
かあれ紙を打うかづきてどふとあんまこと
丹ちよあくとまよは三四人ともあはび
ゆく。津つとひきまあるとあそて例縫り芦のりふ
あはくちよきじゆるをぐんよ御縫机縫ひとひよ
物あくまある。うつハヌ酒よじくらて水瓶の角
静ばうとめわくらぬふあく。眉の筋と酒一窈窕
樹乃うや蘭乃くらうとくらん。ひもれくいふ
うびてゆきまよりとせとくじとくらうのくられ
色にまでもある。じうすりとれあまとそばあき

みり葉氣よりしの處のくわづかゆきまう
めりきよれよやれといふとみれを葉くらふ
ゆべとおり。仰あく。ばそづひこぎとゆくよ
きうねり草はうはよきれなる。苔はうが風よ
じふくぬわら葉乃うづとあく三つらむく
ふくと二尺もくろのねごどゑハ浦城まよ。松山
はよやまくつんとあぐよ。今三千る。びらあくんよ
一人のゆくねりのあくまふ仰ようと。福ひうき
きふととく。まきまをびよ。浦城まよ。連て
ちくきりとまきまをびよ。浦城まよ。連て
でうとしゆくじゆるよ。あくじうよ。あくと權
きう。おようらうまをくらう。まみよ。どうちくや
ぐそよとくを何うさんとく。がくひそく。まふ室

とくぶくもつよ日ひうよハ神もて鏡とけしとく
内く海にハるうび志のしきむれうはたこくとく
みもんとくせつまくわれど。とくけニルトモミ一尺
ぢうかくじゆびれ松乃水をハ一石ありよりよ
えふれあくよ浦もひつまくもとニニアリあつきて
おれりまそくじゆがく物うれとからくにまたこみき
ひとくうらくやくともうれようちうきくゆりのて
まくまくとくしなびくまくくへくとひく
たうひくちかくまくのねゆうむくまくまくまく
てひくがく。船中もうとのじゆるやくても下
よもあきて魚くくとくとくよ神乃雪を
きやくじよ素がねくくとくとくよ神乃雪を
入あひといじよがゑくくとくとくよ神乃雪を
純六法あよあよばやきそねのこ遊て累ぬとくわら



第七回 僕のと人の轍よどゝ事

まもひも下りぬ。故の傍手びのため運転へる。櫻
井より鎌倉へ西行三百石とく。金銀まれりは
時代されぞ歴くの事あり。すくは入るく
とあきらめよ。すくは有りて曰くれども
山行よたゞそこともあらゆるやとくとうじうれ
とあきらめ。こもんともうよやとくとうじうれ
くとも外まふあらず物をうぐつてあきらへ思
つるがれ男二三人とおのの活合のまぬけどこ
ろもくまつやうくわざあらもほくまじ小引どうふ
りてきそこのわくくくへ出うどもぶは寝て
しみづは時廻り。とあるい。軍よゆく
をやうまううれむ様のううよくわちくわ
あう。えひよだち。まくくねりてまう。逆よどき

ほりせんと思ひ。まうまうまへまふのがう。あく
かくあくよがとくらぢまきよひづくへうめ
うん。とくまくべまわとひりくよへくづくやう
うんきあはれ。拂ふくたまそひとよおもと
きりひうでじゆそ近えんとくあくもとくを
とくをやかうあく。まく傍れまうまへ
くらじまううればまうちむかくてあかう
二三をつ。まうまうもあくとくらふきのうて
みくみよひくきんとくもあく。とくらふきのうて
牛にまうめれ。まううきふくとくら拂りじ
男もくらよひきのう。のうきのうてやま拂う。さ
といれとくもあくまきとく。近ゆく傍れとく
の隠のう。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ
やまて懸ト。まくぞくとくまくぞくとく

名主草卷五
さうりつやまと熊がりのゆくふく。暖よ
やうてぬ熊乃ねうんとおり。この後。おもひと
ふかう。源公頃羽が因とのれ。おお湯がせのとぬ
ねうらうもとて。ゆる櫻林よすびて。また。洛陽
よのぎり。僧兵よけさせと。よほえゆく。福
のみゆく。
第八道り。傍山城。あ。事
あきひく。中の縣。もの。傍山城。三四里。あ。山家
いゆく。こある。きて。ある。ひる。蹄。あと。く。人。通
ゑもたる。様道。よ。あ。れ。う。あ。か。く。ふ。と。も。と。マ
い。さ。ま。と。う。山城。様。と。と。御
お。家。と。が。傍。と。う。と。そ。く。たち。の。ん。と。も。う。に
い。あ。沿。く。る。う。と。う。と。あ。そ。う。あ。そ。た。え
ら。い。ゆ。ふ。山城。と。く。洋。づ。く。へ。お。と。そ。う。と。と。く



ひうまくあふとあふ。廣崎ハうまのてゆき
まくよみあやひよんじ翁城りうねれよ
ちうやまととべられど切がくうじかよううを
まくもくよふとふ用あつめあれ
つぶあまくよふとふ用あつめあれ
もくもくとせひよりせんとくまひとくま
ちくちくまくべとこほきしゆだそれどまのる
せんふねくづきひうまのくハあれうふとね
とくねくよああじらや安はうきうりゆが草
よなうや草とせうう褐うりともううく
きくうううあせんと草くまくまくまくま
あううう。近れやハせんと草くまくまくま
一 小園とのくまくわを人もちうだなまふ小園を
ごめくまくわがもへ命うとせひねと人のくま

まくううとくわがもへとあらう事。す。
たまくべきあくまくまくまくまくまくま
れとくう。虎はばまねうあらうて。是にまくせて
ゆくよふああうてかげみくう。先とあらひ戸と
とづきとアラミバウロとひしてあらうとアラヒキ
き。そこまくまくまくまくまくまくまくま
さまく。傍るゆきうびくう者うりやううう
りよ女ありひくまくまくまくまくまくま
やくよか。アラミとアラミとアラミとアラ
ミ。主ひかく。傍ハ神うううとそ附く。女あり
りのまく神うううとゆとあるそねをやうう
アラミとめハとらでありうよへの比うすとアラミ
ざんまくこれきいふとつあうちうおそれどよ
ざいざんは合くよあら場主めふたまくまくま

而もうむらてむとれあへちひ画歌ひ
もやくくらうきりとひがねふたまわく
もとせきけじれはる人のあうり。とくめくく
とおりよとまこあふまう美鬼うばゑどいく
よそくおとしゆそくゆううめうとまくとく
うよくとみにまくとくゆうとまくとく
もくあうをとみくみのぐれとひくま
へるく。とくぐくたら思ひとむせうとく
おれぬ脇傍かきうりのよひとくじう事

脇傍山河よとゆくじ西よううくあうくあう
谷あひよちのまなあうれをだらううやうう
たと云軍をうりの男をうれをだらううやうう
ううみうううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう

うれともくうううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
とあみじいきうくはあよしうくうちの男大
まふきうだうううううううう
よじいきうううううううううう
内もれ十町をうううううう
あはこの谷よ田畠よりうううう
もしきうううううううううう
病ちとくとくとくとくとくとく
うんきれあゆまとくとくとくとく
りうううううううううううううう

とくうをよふ。おとこへかへりその傍らいくあくを
つひごどもとどくぬあよめ もたくたまく
あら死體さう。あまくへ珍あがかもひのじく。か
里もやくそりくろくまのまくわもやへま
よどりにみくろされば。んほそきだらうさう。か
ふやくそらうぢうりの女もう。驚ひ激とうきに
あうぐれとあまくへ。うちうきうじうりのひりに
じうきくとくべどひく。まうりきのよま
じ。そひまくましゆく。あくひくやくともくね
ハミタリふととあらはれり。やまくおのまれ戸
とうごう。あめりやちと知しゆきへとそこ
うとあそぐり。がまくはまくとまくふされ
し。まうきうあり。まゆきうそ。ハ今まくわ
對あまくとそくとくとく。あこふきどりそづけ
生

いほうとあり。そまくまくとすく。まくとすく
スミラふ。いじめつせ。かどむ。まくへ。まくと
やまと。逃げ。まくと。と。まくと。まくと。まくと
戸。戸。戸。戸。戸。戸。戸。戸。戸。戸。戸。戸。
いと。やうれ。やと。いと。まく。まく。まく。まく。
思ひ。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
やうそ。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
よあ。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
たの。まく。まく。あ。まく。まく。まく。まく。まく。
て。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
へ。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

まくわ 事なし やう

宿直 目次

三二

第十 京師よ人失ふま
而司代又聲あく とりよきさむくでとれん
きりこのととを京に限る町人のさめりくをセ
く。十人よひくろりのひき 駕うきひ
あひてちわば行ふ。而司代よ まふ思ひあひ
共一人もとも町人のようば 小柄めぐら修す
かくうともももとぞも小柄めぐら修すて。ナ七八の女房
神のうちりをえみゆきをよほのりくがみ際
あらたりたひくりゆくよああ和まとくよ
いはうくとくう跡とわきへこゑあくへまう
とくよどくうまくもくとあれハヅのり情よ
ぬとくうやもひ。説教もよきとがれも是
らをあやひゆのれとあひい。おだうときな



たまきとどうりくもそゆをあおぎよあひと
との聚ひどもかとくわざとされじゆくをき
三事につきう。ひがすとハあれきうと門
うちてたれぬ内うちあら。板うち女三人
たちあてまくまくまくまくまくまくまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とあれどもとまくとまくとまくとまく
入たまくまくまくまくまくまくまくまく
くうめき落りまくまく。例の女ぢう。あもとゆく
もあれまくあもとせきく。あもとゆくも湯
くねまくひうやくもとゆくもとゆくも湯
あもとれむよく。あもとゆくもとゆくも湯
やふり。而自代々あいそりがよこののそ
きぢうまれば。ひの内がよの巻もかき

きくまくへども。こじひゆくとまくと
ひくらげまくとて。けりまくとまくとまく
まくとまくとまくとまくとまくとまくと
ゆくとまくとまくとまくとまくとまくと
ゆく。女きぢうとまくとまくとまくとまくと
ゆく。あもとゆくとまくとまくとまくとまくと
ゆく。女きぢうとまくとまくとまくとまくと
ゆく。男十人ぢうとまくとまくとまくと
ゆく。あ内一井戸はうと。人もりくらうと戸は
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
うせにほようきうと。人ひきむらうとまくとまく
きひくりゆくへあづくとゆく

第十一又教はまくあら事

あう倍無宵うひうとゆくとまくとまくと
てまくとまくとまくとまくとまくとまくと

まづんもあつてひそかのこまとひゆで醫者
いそくじよきわざをあきがうへあまへとどき
令ふきをしりへとひよかとちきよびとそぞりて
もすら緋とりおれといふまくとそぞりて
死ゆく沈下てねり令下さる巡勅あり。これ
のこうちへとく事ばくとく縁ひあがたむとそぞり
て。書はせり。そりへとひよかとちきよあもわ
らきのとおとよくよ。おももやひて人を
つまねども。ひきへとひよかとちきよあもわ
りとあらむのとひもあひよふそとてねる。さ
あもばくとくとひよかとちきよあもわ
りとあらむとひよかとちきよあもわ
り。その年よ人のいとくにとくがくとくとく
おおむきあらむ。よがくとくとくとくとく
にとくとくとくとくとくとくとくとく

にとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

等十二かんとくとくとくとくとくとくとくとく

天満よ高人あり。猪をとくへあひだり比類よき
いそくじよき。あめくまのりとくのひきれの脛
よのりとく。あてへひそよるひとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

常るがりもへてをひまく。あすまくと
あきのたまごあり。よしむありしもてアレを
あみみちを乃どありまつてハあつまと書
画。そとひ事びせんとあるふもおゆうと書
たり。あらまくと書く。まくと書く。じくと書
く。樹べとらひ。逃もろが。船も里方へあきまんと
あらまく。かんうのじゆはまく。書よじくと云
やう。泥子乃ひく。かるひぐ。蟹物とてうりあれ
る。と備え二人やといふもねよ。海とわく
まれあらまく。つづ書みく。ひされふよ
りのばとうだ。中よ何をさうりんだが蟹よ
とり。アモト。まく。あきあがり。ちやを
ちねをうてうんぞ。小きみつとて。めくまく
れちゆき門とく。くよ。圓窓。出く。ある。ゆ。

ソシや行を。乃は後うて。ちく。ちを極く作られ
まく。べく。は。あ。あ。の。か。て。づ。ま。り。や。ぢ。き。じ。ろ。く
済。あ。ん。り。キ。よ。く。な。く。べ。ど。も。泥。子。三。費。自。け。り。下
され。じ。う。よ。く。え。し。も。約。よ。あ。ふ。不。常。な。れ。一。纏。れ
り。な。く。細。引。か。り。よ。系。ア。ベ。く。ほ。く。う。う。れ
り。く。げ。庭。ト。き。よ。日。入。と。よ。圓。窓。ま。く。て。ま。く。け
と。う。へ。く。く。は。泥。子。乃。是。つ。く。は。庭。あ。づ。く。ひ。う。け
に。よ。り。と。う。ひ。ア。マ。グ。ト。く。う。ド。ま。か。と。く
事。も。も。よ。ヤ。す。り。ヘ。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。
費。自。年。ア。リ。ヘ。と。ヤ。う。れ。は。う。く。は。又。自。ま。は。無。い。
内。鳥。那。の。ほ。手。も。れ。ば。じ。三。費。自。あ。う。金。ひ。も。み
法。う。よ。ち。ア。ア。リ。ヘ。と。ヤ。付。ひ。あ。く。ふ。く。く。く。

ともあらゆる事とてりやうとせんせの事よりはんじがひをめちりとくよで
のあらうきりがとこまこともくあるる里てお
さよ下さうべとおきとけりくぢくをりはんじ
らばがあれりのせあふりひやも寢かうくら
ぞだりへけりきどきじもねの物もあけや
もえ移へときよりをせまくとくへ國富もくと
みがりらへつまれぬきるわれてとくをせられは
躰逃アキラべくれどほんへとくすくへがくあら
きくやうなよくはと色代ありてあくとをせぬ女
房ひいふくわくひや朝珠うきく野球の常
あくわて相打ちもよされどつづりはおくん
ざう相人のもくとくを極とる人も命とぬ
ふえ素の厚きがまひとりひたをうべくれど

木さんまく。それ七八歳うつみ十五歳なり
十六年の春乃ひかわせりとあるまくざれ
あこがまくくとそがわやや人のつうづく
あよさくじをのつうづりこれもとくまくざれ
人まぐらす。おまかせ

延寶丁酉元和元且

五条橋通扇齋丁子益
西村翁右湯つ用板